

5-7 安全性

5-7-1 調査

(1) 既存資料調査

ア 調査事項

調査事項は、「5-6 地域分断」と同じとした。

イ 調査方法

調査方法は、「5-6 地域分断」と同じとした。

ウ 調査結果

調査結果は、「5-6 地域分断」と同じとした。

5-7-2 予測

(1) 供用時の安全性

A 案(高架化)実施後の供用時の鉄道施設の供用に伴う安全性への影響について予測を行った。

ア 予測事項

鉄道施設の供用に伴う踏切除却により通学やコミュニティ施設等への移動に係る安全性が向上する事例

イ 予測対象時期

供用時

ウ 予測地点

事業実施想定区域及びその周辺

エ 予測方法

小学校区及び中学校区の状況、小学校及び中学校の位置、コミュニティ施設の位置及び除却できる踏切の位置を基に、移動に係る安全性が向上する事例を推測した。

オ 予測結果

鉄道施設の供用に伴い、踏切遮断時間は無くなる。

呼続小学校、笠寺小学校、星崎小学校、新郊中学校、本城中学校への通学の際に、名鉄名古屋本線の線路の東側から通学する児童、学生は、踏切を通行する必要がなくなり、安全性は向上すると予測される。

呼続、星崎の各小学校区内で、同線の線路の東側の住民が呼続、星崎の各コミュニティセンターに出かける場合に、踏切を通行する必要がなくなり、往来時の安全性は向上すると予測される。

5-7-3 評価

A 案(鉄道高架で事業を実施する)とB 案(事業を実施しない)の比較により評価を行った。

予測結果によると、A 案はB 案に比べて、事業実施想定区域の12カ所の踏切除却に伴う交差道路の整備によって小学校、中学校への通学時や、コミュニティセンターを利用する際の往来時の安全性は向上すると予測される。

以上により、A 案の場合、往来時の安全性が向上すると判断した。

